行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ミャンマー)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター運営委員会　委員　菅哲男
接合科学研究所　客員教授

2019 年度のミャンマーCIS(カップリングインターンシップ)が、11 月 3 日-16 日の期間にミャンマー(ヤンゴン)で実施されました。大阪大学の外国語学部 1 名、経済学研究科 1 名、工学研究科 2 名、ヤンゴン工科大学(YTU)の冶金工学・材料科学部 2 名と機械工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合研の橋本特任講師が全工程を引率しました。

現地での 2 日間の事前研修(YTU、ヤンゴン)で、ものづくり日本企業の紹介やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの事前検討などを行いました。

11 月 6 日からの休日を除く 5 日間は、ヤンゴンにある J&M Steel Solutions (橋梁会社、JFE エンジニアリングの子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(企業理念、組織、業務内容)、安全の講習、実習(溶接、設計、構造物製作の模擬体験)などを受けると共に、11 月 12 日には J&M が建設したコーカイン高架道路橋など(ヤンゴン)を見学し、橋梁会社の最終製品を勉強しました。実習テーマ「コミュニケーションの課題と対策」に関して、企業の幹部・スタッフとのインタビューなども踏まえて、学生は連日真剣に取り組みました。11 月 10 日の文化体験では、ミャンマー民族村などへ行き、見聞を広めました。なお、CIS 期間中に体調不良者が出ましたが、全員が助け合ってテーマのとりまとめをしました。

最終日の 11 月 15 日に YTU で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会(写真)には、J&M の庄司社長と橋本課長補佐、YTU の Mon 教授(機械工学部長)と Yun 教授(材料科学部長)、接合研の菅客員教授と橋本特任講師ら計 15 名の参加があり、質疑応答が行われました。庄司社長からは「新鮮な切口の提案が出ている」とのコメントがありました。

学生は、「ものづくり現場」を体験すると共に、「異文化コミュニケーション」の理解が出来ており、学びの多い活動でした。新興国のエネルギーをもらって、16 日に無事に帰国しました。